

『風と花と』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## 未来を語る！

## 富士河口湖町・富士吉田市

※都留市は中止



### 富士河口湖町 町長さんと語る会

10月28日(水)に富士河口湖町の児童会・生徒会のリーダーたちが「富士河口湖町をさらに豊かな町にしていくためには」をテーマに富士河口湖町子ども議会を開催しました。

河口湖北中学校の梶原星来さんが議長を務め、各学校の児童・生徒と町長さんをはじめとする町の各課長と「コロナ禍における観光促進や防災に関する提案」

「ゴミ問題への取組」「企業誘致や大学・就職先の確保」「公園・遊具の設置」等の内容について意見交換がされました。各担当課長からはわかりやすい説明がなされました。また、傍聴席には町議会議員さんが見学に訪れていました。子どもたちの、自分たちの住む地域の未来を真剣に考える姿が、印象的でした。



### 富士吉田市 市長さんと話す会

11月10日(火)に「私たちが大人になった時富士吉田がこんなまちになってほしい」をテーマに「市長さんと話す会」での討論会が行われました。今年は規模を縮小する中で、市内の小・中学校の児童生徒と市長・教育長が席を囲み、活発な話し合いがなされました。また、市長さんへの質問や各学校からのお願いもなされました。

富士吉田市の児童生徒連絡協議会(児生連)では、「美しい富士山のもと、伝え合う富士吉田」を今年度のテーマとして、「環境」活動では新たに「ゴミ捨て禁止」看板の作成と設置を、「交流」活動では「市長さんと話す会」などを行っています。本活動も子どもたちが市長さんに直接お願いできる貴重な機会として、今後も継続していきます。



## 「第25回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」

11月6日(金)、県立都留興譲館高等学校(高野修校長)において「第25回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催されました。今回は、中学校からは教頭、3学年主任が出席し、高校からは教頭、教務主任、広報情報・連携主任が出席しました。コロナ禍での各校の連携の実態と学校の現状について報告がされました。また今後の中・高連携に向けて、中学生の「キャリア教育」の推進のために、積極的に出前事業や部活動の交流を図っていくことを話し合いました。中学生が高校のことを早い段階から知ること、自己の進路選択を考えるきっかけとなるため、今後も幅広く連携を深めていくことが確認されました。

# 第19回 一人一花運動 フォトライブラリー展



秋山小学校 3年 小林希徳さん  
秋山保育所 年長 小林舞心さん

北都留地域教育推進連絡協議会（会長：江口英雄上野原市長）では、子どもたちが未来に向かって「夢」や「希望」を持ちながら生きていくことができるように、地域の教育力向上を意図する「地域教育 明日の風」の活動の一環として「一人一花運動」を進めてきました。

4月に北都留地区の全ての幼・保・小・中・高・支・大および主な構成団体と、小学3年生、保育所（園）・幼稚園の年長児全員に花の種約 2,000

袋を配付して、花が咲き、潤いのある環境づくりに取り組んできました。

配付された花の種は、各地でこころを込めて育てられ、今年も多くのきれいな花を咲かせました。その様子を収めた写真展『フォトライブラリー展』が、11月9日（月）～12月11日（金）まで、北都留教育会館で開催されました。



## 野口健とともに 真木ブルー&シオジの森 観光資源調査

10月31日（土）、大月短期大学 佐藤茂幸教授のゼミが主催し、桃太郎スポーツクラブが共催した真木川流域の美化活動が行われました。

当日は、アルピニストの野口健さんとシオジ森の学校の下澤直幸校長を講師に、大月市の大峠から雁ヶ腹摺山へのトレッキング、さらにシオジの森の散策を行いました。その後、真木川流域のゴミ拾いを行いました。

今回は、大月市の水源林の真木川・小金沢川上流域の森の魅力を直接体験することで、観光資源や自然を守ることの大事さを学んでもらうことを意図したイベントです。



## ふじざくら支援学校 おはなし会 ボランティアサークルこのはなさくや



11月17日（火）に、ふじざくら支援学校（望月公校長）の4～6年生に対して、富士吉田市立図書館（真田武館長）のボランティアサークル「このはなさくや（渡辺律子代表）」によるおはなし会が開かれました。

「このはなさくや」の読み聞かせ活動は、20年を経過しますが、ふじざくら支援学校との地域交流は、今年で4年目を迎えます。



今年は、新型コロナ対策として体育館を会場にし、児童との距離を保ちながら活動を行うため、大判の絵本や紙芝居を用意し、絵本を大型スクリーンに投影してマイクも使用しました。また初めてピアノ伴奏を交えた読み聞かせやエプロンシアターを行いました。



子どもたちは、お話に合わせて身体を動かし歌や踊りを楽しみました。



## 「明日の風」 小林雅英野球教室



北都留地域教育推進連絡協議会（会長：江口英雄上野原市長）では、12月12日（土）に大月市営野球場において、大月市出身の元大リーガーで、2004年アテネオリンピック日本代表で銅メダリストの小林雅英氏による野球教室を開催しました。郷土出身のアスリートとの出会いを通して、子どもたちが自分の将来に夢や希望をもって生きていこうという意欲を育てることを目的としています。今年で20回目となる同教室には、大月市・上野原市のスポーツ少年団の児童や中学校の野球部の生徒、約100名が参加しました。



今回は「投げる」ということを中心に投球フォームに重点を置いて、子どもたち一人一人に丁寧な指導をいただきました。小林さんから「野球がうまくなる一番の秘訣は、野球が大好きになることです。アドバイスを受けたらメモをしておくこと。『野球ノート』を作って、日々の練習の振り返りを行い、明日の練習に生かせるようにしましょう。」と助言をいただきました。

コロナ禍下での実施にご協力を戴いた方々に感謝します。



## シオジ森の学校

## ロケットストーブづくり

シオジ森の学校（下澤直幸校長）は、水下ベニア商会作業場にて11月15日（日）、「ロケットストーブづくり」を開催し、コロナ対策として午前・午後の部に分かれて行いました。「ロケットストーブ」は燃焼効率が極めて高く、少量の薪でご飯を炊いたり、お湯を沸かしたりできるコンロ兼ストーブで、非常時にも役立つとされています。その優れた熱効率から「エコストーブ」とも呼ばれています。



廃オイル缶2個をドリルや金切バサミなどを用いて、参加者は協力して作業をし、見事なストーブを作り上げ、ものづくりの醍醐味を満喫していました。水下ベニアでは、8年前から「ロケットストーブづくり」教室を開催しています。毎年少しずつ改良を重ね、より工作しやすくなっています。



## コロナ禍での伝統の継承 下吉田第一小学校 運動会表現「やぶさめ」



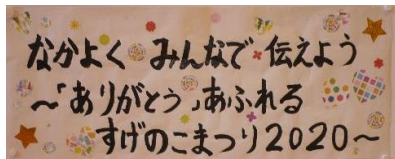
下吉田第一小学校（宮下敏幸校長）は、富士吉田市内で一番古い歴史を持つ公立小学校です。校舎は、小室浅間神社（下浅間）の隣にあり、この神社の「流鏝馬祭り例祭」は、平安時代末から800年以上も続く由緒ある神事です。通常の「騎馬で狩衣姿の射手が矢の的を射る流鏝馬」とは異なり、小室浅間神社は、「馬が走った蹄跡を占人が見て、厄災を占う」ことが特徴です。

下吉田第一小学校では、1986年からこの流鏝馬を題材とした全校表現を運動会でを行い、5年前からは4・5・6年生の表現活動の発表としています。今年は9月20日（日）に運動会が開催され、新型コロナ感染予防のため、例年の内容を「接触をさける」表現に変更しました。



例えば3人の馬役が、射手を担ぎ上げる場面は、射手を担がず馬役が両脇に控え、射手が弓を引くと側転するダイナミックな表現にしました。また、占人が馬の蹄跡を確認する表現は「流鏝馬」の特徴であるため、昨年同様に表現内容に反映させました。

## 元気が一番 小菅小学校 **すげのこまつり・未来の科学者訪問セミナー**



11月1日(日)、小菅小学校(伊藤秀一校長)では、「すげのこまつり」を行いました。例年とは異なり、コロナ禍での実施となりましたが、児童たちは、開閉会式、各学年の出店等を、企画・運営しました。

村長さんをはじめ、招待した地域の方々、多くの保護者が来場し、趣向を凝らした各学年の出店では、児童たちが“おもてなしの心”で来場者に接していました。

また、午後から「未来の科学者訪問セミナー」が行われ、山梨大学の丹沢勉准教授から「いろいろなロボット、ロボットの話」をテーマに、お話をいただきました。

講演の最後には、実際に様々なタイプのロボット

に触れて、児童たちは「科学の不思議さ」や「身近にある科学技術の活用」に、目を輝かせていました。



## 島田幼稚園 **交通安全教室**

11月2日(月)、島田幼稚園(小俣美代子園長)で母の会が主催して、秋の交通安全教室が行われました。例年は、春と秋の二回行いますが、今年は新型コロナの影響で、秋のみ開催で「3密」を避けるために、園庭での実施となりました。



当日は、県警察本部交通部所属の交通安全教育車「さちかぜ号」から「けんちゃん」と不思議な手品師、上野原警察署から交通課と島田駐在所の警察官が来園して、園児たちと四つの約束を確認しました。

園児たちは、「けんちゃん」たちの問いかけに対して元気よく答え、一つ一つの約束を大きな声で唱えていました。

## 上野原高校 **第10回総合学科発表会**

12月12日(土)、上野原高等学校(小佐野景賀校長)にて第10回総合学科発表会が開催されました。今年度はコロナ感染対策として、当日は各学年の代表者の発表に限定し、生徒の研究成果をteamsで各自が閲覧できるようにして三密を避ける形で、1年次生から3年次生が一年間の学習成果の発表を行いました。また、卒業生からはビデオメッセージが届けられました。



3年間の継続したキャリア教育の中、各学年が現時点での学習の成果を発表することで、自己の「今」を認識し、発表会を通じて相互に学び合える取り組みは、全校生徒314通りのキャリア教育を見ることが出来ます。「産業社会と人間(1年)」「総合的な探究の時間(2・3年)」の学びを活かして、3年生は「SDGs」と各自の課題を関連させて探究していました。

## 令和2年度 山梨県立上野原高等学校 総合学科発表会



## 富士山科学研究所との連携 『防災教育』 西浜小学校 Ver.



富士河口湖町内の小学校で唯一「富士山が見えない学校」であり、富士・東部地域の小学校で唯一「芝の校庭」を持っている学校として有名な「西浜小学校（三浦和朗校長）」では、10月23日（金）に「正しく知り、正しく恐れよう～身近な防災のこと～」と題した防災教育の研究授業が行われました。

富士河口湖町立教育センター（梶原斉所長）は、町内の小学校への「富士山学習」の一環として、県立富士山科学研究所（藤井敏嗣所長）と連携した授業プログラムを実施しています。

当日は、5・6年生の児童に対し、過去に起こった地元の自然災害を題材に「防災」を学び、災害から自分を守るためにどうすればよいかを考えました。また、「富士山が噴火したらどうなるか」を映像や実験で確かめることで、噴火した際の避難行動の仕方を考えました。



## 富士山学習 河口湖新倉掘抜見学 ほりぬきがひらいた未来

富士河口湖町立教育センター（梶原斉所長）は、以前から取り組んでいた「富士山学習」として掘抜学習教材「ほりぬきがひらいた未来」を平成27年に作成し、平成30年からはその中の「河口湖新倉掘抜」の見学について、体験学習プログラムとして実施しています。

学校ごとに「河口湖新倉掘抜」の見学を実施しており、11月24日（火）には、西浜小・大嵐小・富士豊茂小の子どもたちが「河口湖新倉掘抜史跡館」を訪れました。

はじめに、史跡館の古屋妙子さんから掘抜作業や工事道具の丁寧な説明を受け、実際の掘抜（トンネル）を見学しました。次に、教育センターの渡辺富美夫さんからは、河口湖にある6つのトンネルの役割や歴史を聞きました。子どもたちは、当時の人々の「掘抜」に込めた「願い」を受け止め、地域の発展に尽くした先人の努力や苦勞を知ることができました。



## 5・6・7に負けるな！ つる食堂 つるっ子プロジェクト実行委員会・耕雲院



新型コロナの影響で、休止していた「つる食堂」が10月21日から再開されました。今後は、予約制で毎月第3水曜日の午後6時から8時まで都留市の耕雲院で開催されます。

4年前に都留文科大学の学生2名が「あつまれ つるっ子」として不定期にイベント活動してきましたが、寺を中心にした地域のコミュニティづくりを模索していた耕雲院の河口智賢副住職と出会い、耕雲院を会場として活動を発展してきました。現在は「つる食堂」として3年目を迎え、都留文大生36名が集うボランティア団体「つるっ子プロジェクト実行委員会」（太田春菜代表）として地域の多くの方々から支援を受けて運営しています（コロナ前には100名を超える利用者）。

地域の誰もがあつまることのできる場所として、河口副住職は食堂だけでなく「ママカフェ」や「寺ヨガ」も行っています。また、コロナ禍で学習場所を提供する学習支援の活動を都留文大生とともに運営しています（原則水木土の3日）。学生

たちのバイタリティー溢れるアイデアや行動力を、共に形にしています。「地域の人（子どもも大人も）と繋がる交流の場」として「つる食堂」は走り続けます。



北都留地域教育連絡推進協議会「明日の風」は、平成18年から「シオジ森の学校」の活動を協力事業としています。今年度は、活動が始まって15年を迎えます。大月市北側の葛野川源流部に広がる「小金沢シオジの森」を教室として、子どもだけでなく、親子で、また森の生活を楽しまたい大人の皆さんの参加が可能です。新型コロナの影響で、例年用意されていた様々なプログラムが延期や中止となりましたが、9月から徐々に再開しています。今回は、創設当初から活動に携わっている下澤校長先生に話を伺いました。今年度長年の活動が評価され「山梨県緑化推進機構 県知事賞」を受賞しました。

## 天然林の森のすばらしさを知ろう シオジ森の学校 校長 下澤 直幸

「苗木を育てよう」=創立2年目の森林体験のひとつでシオジの苗木を植えました。



北都留地域は、どの自治体も森林面積が90%前後を占め、山梨県の平均78%を大きく上回っています。

森は、うまい空気、うまい水を生み出す源であることは、皆さんの知るところです。北都留地区の魅力は、この豊かな森がどこまでも広がっていることにあります。

シオジ森の学校は、山梨県森林文化の森のひとつ、小金沢シオジの森を、楽しもうと集まった人たちで、2006年に誕生しました。

小金沢シオジの森は、雁ヶ腹摺山の北側の沢沿いに見られる広葉樹、シオジの群生地にあります。大月駅からは、国道20号線を甲府方面に向かい、真木入口交差点を右折、大峠に向かいます。この大峠が、小金沢シオジの森への玄関

口で、シオジ森の学校への入り口なのです。

学校といっても、校舎も校庭もありません。森のあるところ、どこでも教室に早変わりします。子どもたちばかりではなく、おとなの方も大歓迎です。森で遊びたい、森のことを知りたい、森を育ててみたい、という人なら、どなたでも参加できます。

シオジ森の学校の一年は、4月のオープン・キャンパスに始まります。

ここでは、お招きした講師のお話を聞いたり、ネイチャーゲームや一万個の積み木で遊ぶ「つみきの広場」などで、森の学校の活動のようすを知ってもらいます。

春から秋までの活動内容は、毎年変わりますが、トレッキング・虫探し・探鳥会など森で楽しむ活動のほか、苗づくり・間伐や枝打ちなどの林業体験、さらには、間伐材を活用したクラフトなどもあります。



「オコジョ」=冬毛のオコジョです。体長20cm前後で、人見知りせず、駆け回ります。

昨年は、森のふしぎを知る「シオジの森でピンゴ」、動物写真絵本作家をお招きしての「森のお話し会」、わずかな燃料でご飯が炊きあがる「ロケット・ストーブづくり」などの講座が開かれました。

今年の講座は、4月17日に開くオープン・キャンパスでお知らせします。楽しみにお待ちください。会場は、大月市民会館で、午後1時30分から始まります。シオジ森の学校は、森へ行こう、森で楽しもうとする皆さんを、待っています。

((シオジ森の学校事務局 大月市大月2-12-29 誠実堂内))

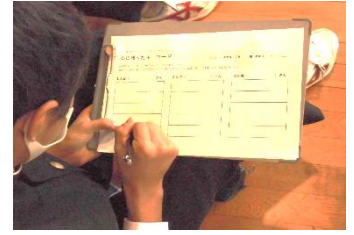
※「シオジ 森の学校」は、山梨県林務環境部の支援を受けて、山梨県教育委員会、都留文科大学などとも連携し、森や生物、植物などの研究者の協力を得ながら活動しているボランティア団体です。

### <<インフォメーション>>

○アスリート実技講習会 第5回:2月20日(土)大月市勤労者体育センター 第6回:3月6日(土)大月市宮陸上競技場  
○ことぶき勸学院 令和3年3月11日(木) 2年生:卒業式 1年生:修了式 於:県民文化ホール (予定)



富士吉田市立教育研修所（三浦雅彦所長）は、「進路決定前の中学校3年生にふるさとで生きる価値を伝え、地域で活躍する若者から職業観を聞くことで生徒のキャリア発達を図る」目的で、市内4中学校で「ふるさと発見ワークショップ」を10月30日（金）に行いました。



教育研修所が中心となり、富士吉田市地域振興・移住定住課、商工振興課、かえる舎の協力を得て、多様な職種に従事する17名の若手講師に「自分にとっての地域とは、仕事とは何か」を語ってもらい、生徒とのワークショップをおこないました。1・2校時には、明見中と富士見台中でそれぞれ3名の講師が、3・4校時には、下吉田中に、5・6校時には、吉田中にそれぞれ9名の講師が訪問しました。15分の講師の話の後、5分間の交流時間には、様々な質問が飛び交いました。事前のアンケートにおいて地域間の地元や仕事に関する意識の違いもみられ、今後のキャリア指導の参考になるでしょう。



話していただくこと

- ① 自己紹介
- ② 人生3大ニュース
- ③ 仕事とは
- ④ みんなへのメッセージ
- ⑤ 質疑応答



高校を知ろう！

高校の特色のある文化部紹介

キャリア研究



都留興讓館高校

工学研究部

興讓

他人を思いやる心を持ち、謙虚な気持ちで学業に励む



都留興讓館高校には、英語理数科・普通科、工業系4学科があります。工業系4学科（機械工学科・電子工学科・制御工学科・環境工学科）での学びをより深めることができるのが「工学研究部」です。工業系4学科は、入学時は一括募集で入学しますが、1年次前半に4学科の内容を体験した上で、後半からはそれぞれの学科に所属して専門分野の学習を深めていきます。各分野の専門技術者（ものづくりスペシャリスト）を養成する機会の一つが、工学研究部での活動になります。ものづくりに関心があれば「興讓」の門を叩いてみよう！

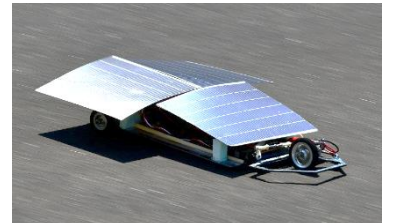
○全国高校生プログラミング  
コンテスト 優勝

○全国ソーラーラジコンカー  
コンテスト 3回戦進出

(過去に全国優勝あり)



ものづくりコンテスト  
電子回路組立部門



○エコマイレージチャレンジ  
全国大会 完走



○ロボコンやまなし



ライトレース

※その他大会参加、資格取得



富士学苑高校

# ジャズバンド部



ジャズバンド部の今後の活動計画

| 日程    | 内容                 | 会場       |
|-------|--------------------|----------|
| 3月14日 | BIGBAND JOINT LIVE | ふじさんホール  |
| 6月6日  | BIGBAND PARTY      | さくらホール横浜 |
| 9月5日  | 宮城県石巻市公演           | 石巻小学校体育館 |

富士・東部地域の高等学校には、吹奏楽部は多々あれども、JAZZ部は、富士学苑高校が唯一無二の存在です。

- ・定禅寺ストリートジャズ フェスティバル 11年連続出場（仙台）
- ・浅草ジャズコンテスト本選出場 26/28/29/30/36/37回
- ・全国選抜フェスティバルジャズ フェスティバル 16/17/18/20回（浜松）
- ・ジャパンフェスティバルジャズ フェスティバル 23/26/30/31回（神戸）
- ・2020 グラツップビッグバンドジャズ フェスティバル（静岡）

上記以外にも多くの大会に出場し、受賞をしています。

ジャズバンド部は、「出前 JAZZ」という企画で地域の小・中・支援学校で演奏を行っています。また、FM-FUJI や富士吉田 CATV、地域の行事に参加し演奏しています。

今年は、10月3日(土)にコロナ対策をとる中、河口湖ステラシアターでエリック・ミヤシロ氏をゲストに迎え、「GIANT STEPS2020」をテーマに第18回リサイタルが盛大に開催されました。



都留高校

# 新聞同好会

4年前、新聞づくりに興味があった2名でスタートし、3年前より同好会として認めてもらいました。今は1年生女子のみ2名で分担して記事を書いています。これまでの部員は全員、他の部との兼部なので、時間があまりとれません。顧問と相談しながら、月1回の新聞発行を目標にしています。同好会のため部費がないので、学校から使わなくなったパソコンを借り、それに入力したものを印刷させてもらって全校生徒・先生方に配付しています。



過去には「山日新聞」の取材や「YBS ててて TV」の取材を受けたことがあります。また、都留高校 OB の三遊亭小遊三師匠の取材や同じくOBがいる東京大学などにも取材に行ったこともあります。こうした活動が評価され、2年前には全国高校新聞年間紙面審査奨励賞を、昨年は全国総合文化祭新聞部門大会（さか総文）にも出場しました。現在はコロナ禍の中、思うような活動はできませんが、オンライン等での取材もしています。学校での身近なことをネタにし、生徒からも取材してほしいとの要望も受けるようになりました。女子ばかりの部なので女子目線を意識して取材しています。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ TEL : 0554-45-7841